
くるめ健康づくり応援店アプリの開発

山田貴裕
久留米工業大学 学術情報センター
tyamada@kurume-it.ac.jp

キーワード: くるめ健康づくり応援店, ウェブ・アプリケーション

1 研究の背景と目的

久留米市では「くるめ健康づくり応援店」という取り組みを行っている。「くるめ健康づくり応援店」とは、料理のエネルギーや塩分などの栄養成分表示や、健康に配慮したメニューの提供、食事や栄養に関する情報の提供を行うことで、市民の健康づくりを応援する店である。^[1]

久留米市は「くるめ健康づくり応援店ガイドブック」を作成して配布しているが、認知度は十分ではないようである。そこで、「くるめ健康づくり応援店」のスマートフォン向けアプリを配布して、市民の健康づくりに資するとともに、認知度を向上させる目的で、久留米工業大学へ開発の依頼があった。そこで「くるめ健康づくり応援店」アプリの開発を行うことにした。

2 「くるめ健康づくり応援店」アプリとは

「くるめ健康づくり応援店」アプリには大きく2つの機能がある。1つは「くるめ健康づくり応援店」の閲覧機能であり、もう1つは食事管理機能である。

「くるめ健康づくり応援店」の閲覧機能は「くるめ健康づくり応援店」として登録されている店舗の情報を閲覧できる機能である。登録されている店舗は120店舗以上ある。これらの店舗から、目的の店舗を探すために、店舗名や住所、キーワード、位置による絞り込みが出来るようになっている。

また、応援店の応援内容は、1. 健康情報の提供、2. 栄養成分の表示、3. ヘルシーメニューの提供、4. 朝食の提供となっており、これらの提供の有無でも絞り込みができる。さらにヘルシーメニューについては、エネルギーひかえめ、食塩ひかえめ、野菜たっぷりの3種類があり、これらの提供の有無でも絞り込みができる。これらの機能によって、ユーザが必要とする食事を提供している店舗を容易に見つけることが出来るようになっている。

食事管理機能は、1日に摂った食事を記録しておき、1日に必要な栄養素をどれだけ取れているか確認できる機能である。また、毎日体重を記録しておき、摂取カロリーと体重の変化を確認できる機能も持つ。

食事の記録は予め用意された様々な料理の一覧の中から選択することで行うようになっている。料理の一覧表から料理を選択すると、料理の材料や栄養素が表示され、その画面で何年何月何日のどの食事(朝食、昼食、夕食、その他)にどれだけ(1/4~2人分)摂ったかを記録するよう

になっている。

摂取した栄養素は、エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、食塩、野菜について1日に必要な量に対してどれだけ摂取したかをレーダーチャートで確認できるようになっている。ただし、この機能を利用するためには身長、体重、年齢、性別等の基礎データを登録しておく必要がある。推定栄養必要量はそれらによって変わるためである。

摂取カロリーと体重の変化は一週間分の変化を折れ線グラフで確認できる。

これらの機能によりユーザは自分に不足している栄養素や過剰に摂取した栄養素を知ることが出来、どのような食事を摂るべきか参考にできる。さらに、そのような食事を外食で摂りたい場合は、応援店閲覧機能から見つけることが出来る。

3 アプリの開発

「くるめ健康づくり応援店」アプリの応援店閲覧機能は久留米市によってオープンデータとして公開されているくるめ健康づくり応援店のデータ^[2]を元に、パンフレット・ウェブ・アプリケーション生成ツール Pamphwag によって生成した。

食事管理機能の料理を選択する機能も久留米市保健所によって作成された料理の栄養価一覧^[2]を元に Pamphwag で生成した。ただし、記録する機能等は別途プログラミングしている。また、レーダーチャートの表示には HTML5.JP の radar.js を使用し、折れ線グラフの表示には D3.js を使用している。

4 終わりに

本アプリは必要な機能の実装はほぼ完了しているが、デザイン等は未だ Pamphwag によって生成したままなので、速やかに完成させ、公開する必要がある。

参考文献

- [1] くるめ健康づくり応援店,
<https://www.city.kurume.fukuoka.jp/1050kurashi/2060hoke-neisei/3060eiyousyoku/eiyouhyoujinomise.html>
- [2] 久留米市オープンデータカタログサイト,
http://data.bodik.jp/organization/402036?groups=gr_9100